

2017 年度
卒業研究の手引き

同志社大学
スポーツ健康科学部

2017 年 4 月

< 目 次 >

■卒業研究 A・B（計6単位）授業計画

I. 卒業研究の意義と目的	P. 2
II. 学習計画	P. 2
III. 学習方法	P. 2
IV. スケジュール	P. 3
V. 卒業論文の体裁	P. 4
VI. 卒業研究発表会（口頭発表、ポスター発表）	P. 5
卒業論文提出表紙	P. 6
卒業論文本文表紙：参考	P. 7
卒業論文抄録集原稿の書き方（例）	P. 8

■卒業研究に関わる倫理審査要領

同志社大学「人を対象とする研究」倫理基準 抜粋	P. 9
卒業研究用の書式で倫理審査を受ける場合の手順	P. 10
卒業研究用の書式を使用する適用範囲	P. 11
卒業研究の研究倫理審査から結果までのフローチャート	P. 12

卒業研究A・B(計6単位)授業計画

I 卒業研究の意義と目的

スポーツ健康科学部が掲げるディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)は、『健康』と『スポーツの社会的発展』に関する課題を発見し、その解決策をスポーツ健康科学の視点から探究できるようになる知識・態度・技能の習得にあります。ここでいう「知識」とは、「健康とスポーツ活動およびそれらを取りまく社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツ健康科学の体系的な理解」であり、「態度」は「健康とスポーツの社会的発展に関する課題を発見し、その解決策をスポーツ健康科学の視点から探求できるようになる」構えを表し、「技能」とは、「スポーツ健康科学の特性を適切に運用できるようになり、健康の増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できるようになる」能力のことを指しています。卒業研究は、これらの知識・態度・技能を統合する創造的思考能力の習得を到達目標としています。その到達目標を実現するために、スポーツ健康科学部のカリキュラムは、第5・6・7・8セメスターに専任教員担当の必修科目「演習I~IV」をそれぞれ20クラス程度(平均8名)配置し、4年次に卒業研究A・B(計6単位)を履修するように設計されています。卒業研究では、それまでに学んだ科目の履修を通して取り組む研究テーマを定め、研究計画の立案を行い、自ら定めた問題が帰属する領域の科学的方法論に従って理解を深めることを目指します。つまり、卒業研究とは、学部で習得した知識・態度・技能の集大成で、その結果、学士(スポーツ健康科学)の学位が授与されます。

II 学習目標

1. 研究課題とその背景や意義を明らかにし、テーマを設定できる。
2. 研究テーマや研究目的に適した研究計画を作成でき、かつ倫理的な配慮がされている。
3. 文献検索の意義と方法について理解し、必要な文献を収集できる。
4. 文献を整理し、批判的に読み、適切に活用することができる。
5. 研究計画に基づいて、適切なデータ収集ができる。
6. 収集したデータを客観的に分析し、研究結果として適切に表現することができる。
7. 研究活動の成果をまとめ、論理的思考に基づいた表現・記述による論文を作成し、かつ研究発表することができる。

III 学習方法

1. 各担当教員の指導下で自主的に研究活動を行う。
2. 一人の学生が1つの論文を執筆する。実験や調査、フィールドワークなどの研究では、互いに協力して実験を行わなければならない場合が多く、共同実験や共同作業はやむを得ない。しかし、その場合でも卒業論文は単著として作成する。

3. 卒業研究は時間割表で指定された講義の時間以外で、主体的に研究に取り組むようにしなければ完成はおぼつかない。授業スケジュールを把握し、無理のない研究活動を行うようにする。
4. 研究活動においては倫理的配慮を忘れてはならない。この点については後述する「卒業研究に関わる倫理審査要領」等を参照すること。
5. 卒業論文の提出に至るまで、計画を立てて進めていく。
6. 卒業論文の評価は各ゼミ担当教員が行う。
7. 卒業研究は公開の発表会で、全学生が口頭またはポスターでプレゼンテーションを行い、研究成果を報告する。

IV スケジュール

3年次	研究計画・執筆計画（案）策定 （各ゼミ）	12月頃～
	倫理審査 「研究倫理の審査手引き」に基づき「卒業研究教育部会」が倫理的配慮について確認を行う。厳密な倫理審査については、同志社大学研究倫理審査委員会で行う。	適宜
4年次	倫理審査	適宜
	卒業論文提出期限【※1】	2017年12月15日（金） 17：00 厳守
	卒業研究発表会 （ポスター発表）	2018年 1月12日（金）～ 1月24日（水）
	卒業研究発表会 （口頭発表会）	2018年1月16日（火） 4講時（14：55～16：25） 2018年1月23日（火） 4講時（14：55～16：25）
	卒業式（学士学位授与）	3月下旬

※1：春学期（9月）卒業希望者は2017年7月14日（金）17時までに京田辺キャンパス教務センター（スポーツ健康科学部担当）へ提出のこと。
また論文提出後7月15日（土）～7月21日（金）にポスター発表を行う。

V 卒業論文の体裁

1. **論文の書式・枚数**：論文の形式および枚数は、研究領域によって異なることが予想されるため各指導教員の指示に従う。
2. **製本**：簡易製本文具で製本する。(クリップ又はガチャ玉止め、ホッチキスによる製本は受理しない。)
3. **卒業研究発表会における抄録**：卒業研究抄録集を作成するため、A4用紙1枚に「目的」、「方法」、「結果」、「考察」、「文献」などを簡潔にまとめ提出する。作成要領(書き方)はP.8を参照すること。なおこの抄録集は製本されスポーツ健康科学部書庫に保管される。

4. 提出について

【提出物】

- ・「提出用表紙」(1部)
- ・「卒業論文(製本されたもの)」(1部)
- ・「抄録」(1部)

の3点を京田辺キャンパス教務センターに提出する。(抄録を論文に挟み込んでその一部としている場合でも、抄録集を作成するため、必ず別紙で1部提出すること。)

【提出期限】

2017年12月15日(金) 17:00厳守(1週間前から受付開始)

【提出場所】

京田辺キャンパス教務センター スポーツ健康科学部担当(成心館1階)

※春学期(9月)卒業希望者は2017年7月14日(金)17時までに京田辺キャンパス教務センター(スポーツ健康科学部担当)へ提出のこと。

【注意点】

- ・「表紙」、「卒業論文(製本されたもの)」、「抄録」と共に学生証を持参のうえ提出すること(レポート提出と同様に、代理や郵送での提出は認めない。)なおカウンター上の名簿でチェックを必ず受けること。
- ・「表紙」と「卒業論文」、「抄録」の題目が一致するよう必ず確認すること。

【論文題目のデータ提出】

各ゼミの担当教員の指示に従い、指定の「USBメモリ」に「論文題目」データを格納すること。

<全員のデータを格納したUSBは、各ゼミ担当教員から事務室へ提出される>

VI 卒業研究発表会

1. 口頭発表会について

1) 日時	2018 年 1 月 16 日 (火) 4 講時 (14 : 55～16 : 25) 1 月 23 日 (火) 4 講時 (14 : 55～16 : 25)
2) 場所	恵道館 201、204
3) 発表者	各ゼミから選出された 4 年生 1 名

2. ポスター発表について

1) 日時	2018 年 1 月 12 日 (金) ～24 日 (水)
2) 場所	磐上館 2 階
3) 発表者	各ゼミの口頭発表者以外の者

※春学期卒業希望者は7月15日(土)～7月21日(金)にポスター発表を行う。

◎卒業研究発表会については、後日卒業研究発表会実施要領を公表するので、そちらを参照すること。

<卒業論文提出表紙:様式は学部ホームページからダウンロードすること。>

卒業論文

提出日 年 月 日 ()

提出者 学生 ID :

氏名 :

指導教員

印

<論文題目>

論文に記載されているものと
一致するように!

押印漏れに
注意!

スポーツ健康科学部

----- 教務切りとり -----

受領書 (本人控)

スポーツ健康科学部 ・評価が出るまで大切に保管しておくこと ・記入欄はペン書きのこと

卒業論文	学生 ID		受領印
	氏名		

(卒業論文本文表紙:参考)

20XX 年度 卒業論文
論 文 名

スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
20XX 年度入学
XXXX 番

(氏 名)

卒業論文抄録集原稿の書き方（例）

－書式と執筆上の留意事項－

同志社 太郎(1FXX0000)

指導教員：今出川 太郎

1. 研究目的

- (1) この項目の見出しには「問題」「課題」という言葉もよく用いられる。
- (2) 一般に「仮説」はこの項目のなかで書く。

2. 方法

- (1) 見出しとして「研究方法」「調査方法」「実験方法」などの言葉もよく用いられる。
- (2) 研究の手順を明確に述べる。

3. 結果

- (1) データと統計学的検定の結果を客観的に述べる。
- (2) 箇条書きなどにより明確に記述する。
- (3) 「結果と分析」として、ここで仮説との関係を検討するなど、結果の意味を考えることも多い。

4. 考察

- (1) 結果を分析し、明らかになったことからどんな意義があるか考える。
- (2) 残された問題点や疑問点も検討し、今後の発展のための手がかりを明らかにしておく。

5. 結論

- (1) 結果～考察を通して、何が言えるかを簡潔に総括する。

6. 引用・参考文献

- (1) 本稿で引用した文献のうち特に参考になった文献を1～2点あげる。

<書式について>

- (1) このファイルを見本として原稿を作成してください。書式は次の通りです。
 - ①全体：A4サイズ・45字×42行・余白（上下左右）各25mm・10.5ポイント
 - ②二段組みの部分：21字程度
- (2) 見本として作成しているのは、<書式について>より上の部分です。A4サイズ1枚で提出してください。

<執筆上の留意事項>

- (1) ここに示した『書き方』は一般的形式です。各自でゼミ担当教員の指導のもと工夫して、読む人が卒業研究の内容を理解しやすいように努めてください。
- (2) 原稿はそのまま写真製版・印刷されるので、内容はもとより、文字やレイアウトにも注意してください。
- (3) 「研究目的」から「結論」までの各項目に適切なスペースを割り当て、全体としてバランスのよいものにしてください。
- (4) 各項目の内容がいくつかに分かれる場合には、小見出しをつけて分かりやすくなるように工夫してください。
- (5) 必要に応じて、要点を示す図表なども入れるとわかりやすい抄録になります。

卒業研究に関わる倫理審査要領

同志社大学「人を対象とする研究」倫理規準 抜粋

人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究（以下「人を対象とする研究」という）を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項は、標記倫理基準に定められ、研究の基本は次のように定められている。人を対象とする研究を行う者は、生命の尊厳及び個人の尊厳を重んじ、科学的及び社会的に妥当な方法・手段で、その研究を遂行しなければならない。また、人を対象とする研究で、「ヒト胚幹細胞を中心としたヒト胚研究」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究」等生命倫理に関わる研究を行う者は、当該法令及び所轄庁の告示、指針等を遵守しなければならない。さらに、研究者が、個人の情報、データ等の収集・採取を行う場合、安心・安全な方法で行い、提供者の身体的、精神的負担及び苦痛を最小限にするよう努めなければならない。----- 同志社大学は、本学の学術研究が社会から信頼と尊敬を得るべく、あらゆる努力をはらうことを宣言する。

はじめに

大学は深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする使命を担っており、学術研究が社会から負託された公共的、公益的な知的生産活動であることを真摯に受け止めなければならない。そのためには、研究の自由及び研究者の自治が保障されなければならないが、一方で、自らを律する高度な倫理的規範が求められる。その倫理的規範の基盤、生命倫理の基本的な考え方は、ヘルシンキ宣言に明快であり、このヘルシンキ宣言の考え方を十分に踏まえて計画しなくてはならない。

したがって、卒業研究を行うにあたっては倫理的配慮が不可欠で、ヘルシンキ宣言や本学研究倫理規定の精神を理解・遵守し、自らの研究を計画する上で具体的にどのような配慮や方策を講じるべきかを考えなければならない。

卒業研究用の書式で倫理審査を受ける場合の手順

(作成)

1. 「倫理審査申請書 (スポーツ健康科学部・卒業研究用)」を作成する。「様式 ver4.(2012 改定版)」(学部ホームページからダウンロードのこと)を必ず使用すること。作成の際、「倫理審査申請書」、「卒業研究教育部会審査結果」を必須とし、その他同意書やアンケート調査用紙があれば、添付する。

(申請)

2. 「学生の自署」および「指導教員の押印」を済ませた後に、指導教員もしくは学生がスポーツ健康科学部事務室に提出する。

(審査)

3. 卒業研究教育部会委員長は委員会での審議結果を判定欄に記入する。

(審査結果返却)

4. 判定が記入された申請書の写しが委員より指導教員の元に届けられる。(学生には返却しないため、指導教員に確認のこと)
5. 申請者は判定(「承認」「条件付承認」「要訂正」「学内審査」)に応じて次のように対応する。
なお審査結果は、**指導教員へ返却する**。(承認された場合は、「卒業研究教育部会審査結果」のみが返却されるので、申請時に必ずコピーをとっておくこと。)

判定結果	対応
承認	申請手続きはこれで終了です。
条件付承認	裁定のコメントに応じて修正し、再提出すれば「承認」とします。
要修正	裁定のコメントに応じて修正し、再審査を受けてください。
大学審査	より厳格な倫理審査が必要です。学部でなく大学の研究倫理審査を受けて下さい。

- 「条件付承認」・「要修正」のいずれの場合も、再提出書類およびNO.3の「卒業研究教育部会審査結果」を揃えての提出が必要です。(本審査シートは裁定コメント修正の判定に必要なため必ず添付のこと)

卒業研究用の書式を使用する適用範囲

- 「卒業研究用」の書式で提出することができる研究（およその基準）
 1. 学部学生の卒業研究である。（大学院生の課題研究および特別研究は該当しない。）
 2. 研究方法が安全である。
（例）表面筋電図のような侵襲性のない測定方法を用いている。
健康な若者が被検者となっている。
 3. 小規模な研究である。
 4. 情報が漏洩したとしても被害がほとんどないと思われる。
（例）無記名アンケートであり、個人情報を含んでいない。

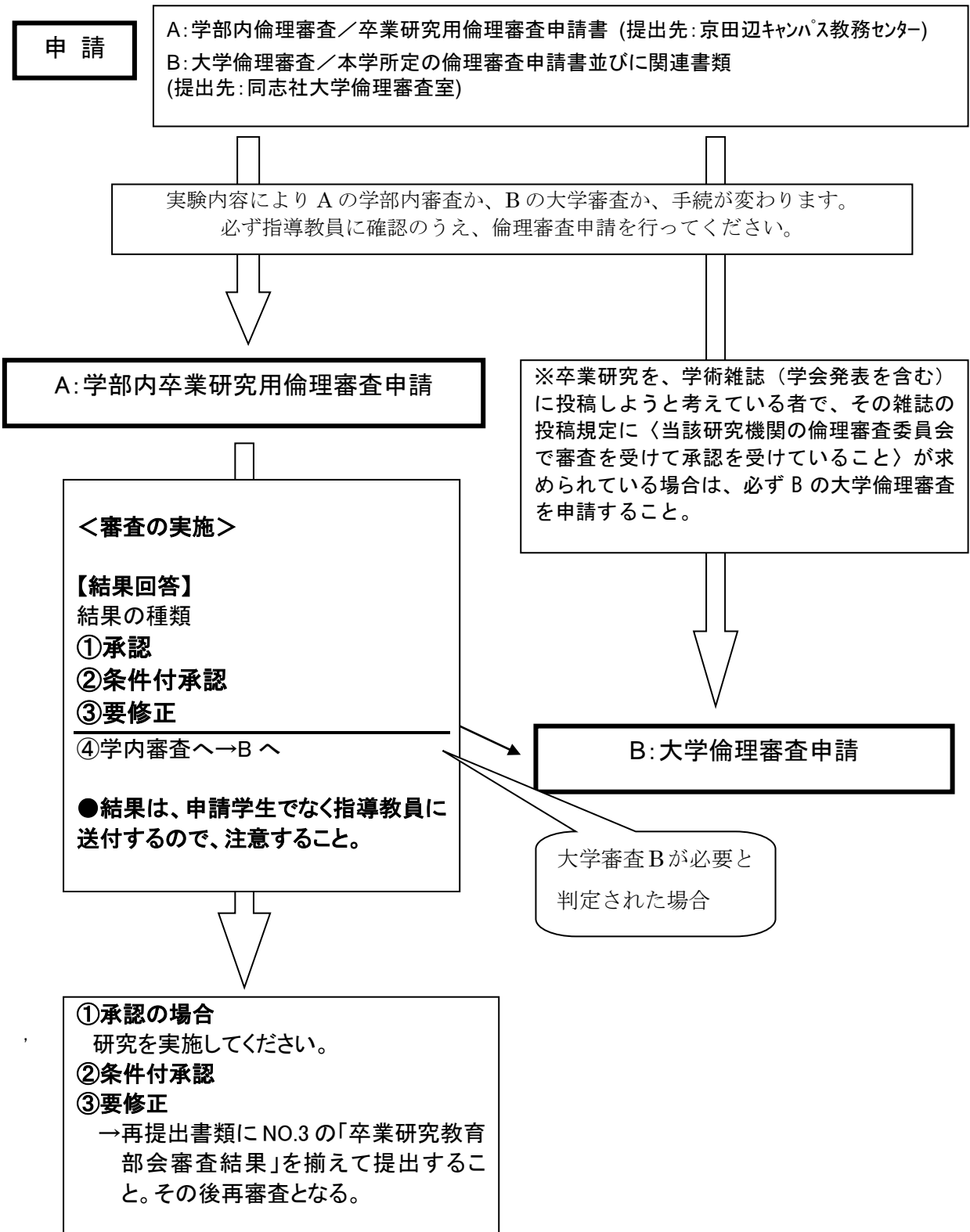
- 卒業研究であっても同志社大学研究倫理審査委員会の審査を受けるべき研究
 1. 学会発表や誌上発表に至る可能性のある研究。
 2. 研究方法の一部に、完全に安全であると断言できない手法が含まれている
（例：採血など）。
 3. 大規模な研究である。
 4. 情報が漏洩した場合、かなりの被害が発生することが予想される。
（例）プライベートな内容を含んだ記名式アンケートの場合、回収作業中あるいは保管中に紛失すると参加者のプライバシーが侵害される恐れがある。

（倫理審査の結果、「要訂正」となった事例）

例	解決法
研究のため競技を実施してもらった被検者の同意を口頭で行う。	同意書の作成が必要
研究期間が未記入。	期間を決定する
添付書類に「同意書」とあるが、提出時に添付されていない。	添付すること。
競技によって傷害リスクがあるのが口頭の同意確認。	同意書の作成が必要
実験方法の記入がなく、どのようなリスクがあるのかわからない。	実験方法の説明を追加
アンケートに氏名を記載する欄があるにも関わらず「個人情報を含まない」という申請書になっている。	リスクに合わせて対応する。
実験に使用しないが、同意書に住所を記入させている。	削除する。
個人情報の保護の箇所で、「連結可能匿名化」と「連結不可能匿名化」の違いを認識できていない。	指導教員に確認。
違う様式で提出されている。	正しい様式で再提出。

卒業研究の研究倫理審査 申請から承認までのフローチャート

研究計画に応じてA、Bのいずれかを選択する。



<MEMO>